

令和6年度 佐久市立中央図書館建替再整備ワークショップの報告

1 開催概要	
目的	中央図書館の建替再整備にあたり、中央図書館の建替再整備基本構想（案）について、利用者の皆様と一緒に考える機会として、ワークショップを開催する。
日時	令和6年6月16日（日）13：30～16：00
場所	中央図書館 視聴覚室
参加者	17名（申込は21名）
内容	
(1) グループワーク（4グループ）	
テーマ「中央図書館建替再整備基本構想（案）」の6つの基本方針について考えよう	
6つの基本方針	
1 図書館は知へのとびら 知りたいことがわかる 新しいことがみつかる	
2 図書館は佐久市の情報のよりどころ 佐久市の魅力に出会える 佐久市の魅力を発信する	
3 図書館は生きる力を育む場 自分のペースで学ぶ 自分で自分を育てる	
4 図書館はともに育つ場 だれもが等しく学びあえる 立場の違いをこえてつながる	
5 図書館は出会いの広場 新しい交流がはじまる まちの文化が生まれる	
6 図書館はわたしの居場所 わたしたちの居場所 わたしたち佐久市民の誇り	
・指定された方針と検討したい方針について、班ごとに意見を出し合い考えをまとめる。	
【指定の方針】 A班 方針1、B班 方針2、C班 方針3、D班 方針4、E班 方針5 ※（欠席が4名ありD班無）	
(2) 各グループ意見発表	

2 意見一覧

A班

基本方針1「図書館は知へのとびら 知りたいことがわかる 新しいことがみつかる」

■幅広い年代の市民の方が、足を運んでくださる図書館になるといい。

■図書館を利用する人には、本を借りに来るとい「目的を持った人」となんとなく来た「立ち寄り人」の主にはこの二つに分かれている。その人たちに対してどのような発信が必要か。

（ハード面で必要なこと）

・新図書館に入ったときに一見して分かるエリアマップやピクトグラムなどを活用したユニバーサル的な案内があるといい。見やすい案内の充実などが一番大事。また、イベントなどの案内板も充実するといい。

- ・いろいろな人が通りやすい幅広い通路があると本も取りやすい。
- ・いろいろなコーナー展示やテーマ別にいろいろな本が面出しして飾られていると普段手に取ることがないような本に出会うことができる。
- ・Wi-Fiの利用などデジタルを進めてほしい。
- ・ホームページについて、子供向けのページもあるといい。見やすさや内容が充実すると、アクセスしやすく幅広い年代の方にアピールできる。

(ソフト面で必要なこと)

- ・図書館の職員の方と気軽に話が出来て、市民参加ができる図書館運営をしてほしい。そのための、ボランティアとコーディネーターをコーディネートする職員の方がいるといい。市民ボランティアの導入や図書館応援団を増やしていけるといい。
- ・応援団は入口のところで案内をしたり、子ども連れが来たら、おはなし会のチラシを渡すなど、場合によっては子育て相談や保健所に繋ぐとか、そういうことができるといい。応援団の役割も自分たちで決めていくような形になるともっといいので、新図書館のオープンに間に合うような形で人材も運営方法も、その市民の方たちで作っていけるといい。

B 班

基本方針 2 「図書館は佐久市の情報のよりどころ 佐久市の魅力に出会える 佐久市の魅力を発信する」

■新しい図書館に文書館の機能を併設し、情報機能を充実させてほしい。

(文書館について)

・旧佐久市、臼田、望月、浅科、それぞれ村誌や町誌があり、佐久市誌については、それに用いた文書が3万5000点ある。プライバシー侵害がないか等のチェックがあり、すぐに原本にあたれない。歴史的な文書とともに行政文書も地方公共団体の成り立ちを全部積み重ねてできている極めて重要な文書なので整備してほしい。文書館を設け、デジタル化、データベース化をすすめることは、方針の情報のよりどころの充実となる。

・保存だけでは宝の持ち腐れになるので、市民の人たちが活用できてこそいい。戦争の時の記録などは、これからの未来の子供たちの考え方の基になるので、活用も含めた機能があるといい。

・文書館の運営に関する人材は、館長、司書、専門職の学芸員、アーキビストを含めて、正規職職員でやってもらうのが一番いいが、会計年度任用職員であれば、手当や体制がきちんとしていることが重要。

基本方針 4 「図書館はともに育つ場 だれもが等しく学びあえる 立場の違いをこえてつながる」

■新しい図書館の建設地は、ミレニアムパークがよい。

■アクセスについて、デマンドタクシーを利用する人もいるが、土日に使えないので問題である。

基本方針5 「図書館は出会いの広場 新しい交流がはじまる まちの文化が生まれる」

基本方針6 「図書館はわたしの居場所 わたしたちの居場所 わたしたち佐久市民の誇り」

■市民ニーズを出来るだけ取り込み、いろいろな機能を備えた図書館

- ・本だけではなく、様々な機能がある市民が来たくくなるような楽しい図書館だといひ。
- ・ニーズによってエリアを分け、子供が声を出してもいい自由度の高い図書館が欲しい。
- ・いろいろな方が集まる場所なので、そういう方々と交流できたり、講演会が実施できる場所があると、知的欲求を満たすことができる。いろいろな要素が詰まった魅力的な場所になるといい。
- ・市民のみんなが集える場所になってほしいというのが一番の希望なので、出てくる声をできるだけ拾った図書館にしてほしい。

C班

基本方針3 「図書館は生きる力を育む場 自分のペースで学ぶ 自分で自分を育てる」

■グループ活動の支援や講座の実施をしてほしい

■来館する中高生に本の魅力を伝えてほしい

- ・いろいろなグループが図書館を利用して活動をしているが、その情報を拾うことができない。活動やグループの紹介をして、いろいろな人と繋がる場にしてほしい。
- ・いろいろな人と出会える場、いろいろな自己表現ができる場になってほしい。
- ・中高校生が勉強をしに来て本と繋がるということがなかなかない。本を読む楽しさというのを体感できるような場にしてほしい。
- ・図書館は情報を発信する場なので、子供たちにはSNSの使い方の講座を開いてもらえるといい。

基本方針6 「図書館はわたしの居場所 わたしたちの居場所 わたしたち佐久市民の誇り」

■ユニバーサル機能の充実

■開館時間の見直し

- ・今は書架が高く本を選びにくい。通路の狭さやトイレなどの問題もあるので、気軽に来られる、居心地の良い図書館になるよう施設の中を充実してほしい。
- ・通路にちょっとした椅子があるとじっくり本を選ぶことができる。
- ・開館時間について、働いている人達が夕方来るには6時半までという時間は利用しにくい。

基本方針全体について

- 基本方針全体について、市民を主語にした伝わりやすいものにしてはどうか。
- 方針の順番も見直すといい。

・今6個ある方針は、全て図書館にとって必要な機能だと思うが、どこを一番強調するべきか、佐久市として理想的な図書館というのは何を大事にすればいいのかという部分が、伝わりづらい。ポイントを絞っていく方がいい。

・この言葉は誰の目線で主語を誰にした言葉として立てていくべきなのか。市民が主体になれる図書館というのが理想的だとすると、その市民を主語にした言葉に置き換えたなら伝わりやすくなる。

・基本方針の順番について、方針1は、図書館に今までない人たちからするとハードルが高いものになりがちなので、市民に寄り添った図書館のあり方について書かれている方針5や6を方針の1番目、2番目に置くことによって、これは自分たちに対して立てられているものだと図書館にアクセスしない人たちにてもらえるものになるのではないかと。方針の立て方の順番、誰目線の言葉にするのか、言葉をシンプルにしていけたら伝わりやすくなるのではないかと。

・市民が主体になって、人々が出会い、交流ができる場というのが図書館の機能としては、今、一番大事なのではないかという話が出たので、基本方針の中でもそこを大事にしてもらえたら嬉しい。

・今、出会える場になっているのか疑問。サイレントルームを作って、喋ってもいいというのが通常になると大人だけじゃなくて子供も来やすい。（方針5、6に関係）

・本を借りに来るだけでなく、人に出会える場所になっていくと発展していく。市民同士の出会い、市内で活動しているグループやNPOとか社団法人などが、図書館という情報のハブになるようなところを介して、出会い、協力関係が生まれるような場所になり、自分だけだと気づけなかったものが見つけれられるような場所に図書館がなるといい。そのために、ここにはどういった資料があるのか。どんなストックの資料があるか外に向けた発信も強化してもらえるといい。

基本方針6「図書館はわたしの居場所 わたしたちの居場所 わたしたち佐久市民の誇り」

- 佐久市民の誇りという明記を避け、方針すべての実現が誇りというニュアンスにしてはどうか。
- 大勢の人が、楽しめる場所にしてほしい。

・子供も大人も会話が生まれるような場所になるといい。

・市民の誇りという言葉は最初から明記するよりは、この方針全部が実現したら市民の誇りに自ずとなる、誇りを持てるというニュアンスにしておいていただけるといい。

・大勢の人に来て楽しんでもらえなければ、宝の持ち腐れになりかねない。図書館でいろんなことを繋がって楽しめることが重要。